

道岳連だより

広報 NO.81
平成29年9月15日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

第56回全日本登山大会北海道大会

平成29年7月6日-8日 羊蹄山・ニセコ山系・尻別岳で開催



第56回全日本登山大会北海道大会が、7月6日-8日まで三日間の日程で羊蹄山・ニセコ山系、尻別岳を会場に開催された。北海道で大会が開催されるのは今回が7回目となり、期間を通じて天候に恵まれ、全国29都道府県岳連・協会からの参加者225名は、各コースに分かれて北海道の山を楽しみ、参加者や大会役員と交流を深めた。

一日目は、13時から宿舎の定山溪ビューホテルで受付、開会式には日本山岳・スポーツクライミング協会八木原会長、札幌市秋元市長など大会役員・来賓が列席し盛大に開催。引き続き前東京農大教授の日下 哉氏が「北海道の自然環境と登山」をテーマに記念講演をした。

二日目は、羊蹄山コース参加者が早朝4時30分にバスで宿舎を出発。各コース強い日差しの中道岳連現地役員の先導・サポートのもと事故もなく下山した。19時から閉会式と交流会、札幌アイヌ協会の歌と踊りのアトラクション、次年度開催地の京都府岳連四方会長への聖杖引き継ぎ、最後は日本山岳・スポーツクライミング協会神崎顧問の歌に合わせた大円陣でフィナーレを迎えた。

大会を支えた道岳連の大会役員は約60名。大会の詳細は近日発行の「大会報告書」を参照下さい。



2017年安全登山シンポジウム

平成 29 年 6 月 20 日(火) 札幌エルプラザ 3 F ホール

北海道山岳遭難防止対策協議会と北海道山岳連盟が主催する「2017年安全登山シンポジウム」が、6月20日(火)午後6時から札幌エルプラザ3F大ホールで開催され、300名を超える山岳関係者や登山愛好者が参加した。

シンポジウムは、道遭対協会長を兼ねる小野道岳連会長の挨拶から始まり、特別講演では北海道警察山岳遭難救助隊西村和隆対策官が「北海道における山岳遭難の実態」をテーマにここ数年の遭難事例を紹介し、道内ではスキー場のコース外滑走による遭難増加などを説明した。国際山岳医で日本山岳・スポーツクライミング協会医科学委員も務める大城和恵氏は、夏山遭難の医療対応『脱水(心臓発作)・低体温症』の予防に関し、登山前と行動中の給水の重要性を解説。冬山などでの低体温症対策として、プラティパスなどプラスチック容器を湯たんぽ代わりに活用し胸など面積の大きい部位に当てることや、炭水化物の摂取が効果的であるなどを話された。



休憩後は、アドベンチャーレーサー 田中陽希氏が「日本200名山踏破から見た北海道の山の魅力」と題し、物事に向かって前進する勇気、時には戻ったり初心に戻る事も必要、来年からは300名山にも挑戦することを表明するなど、情熱的な語り口に参加者は魅了されていた。講演後は田中陽希氏も参加して「お楽しみ抽選会」が行われ会場を沸かせ、21時にシンポジウムは閉会した。



HOKKAIDO OUTDOOR FESTIVAL 2017

北海道トレイルランニング大会2017 in ルスツ



2017年9月24日(日)

ルスツリゾート・貫気別岳周辺

50mile・60km・30km・15km・05km・キッズ

第31回 北海道山岳連盟交流登山大会 8/26-27 富良野西岳・富良野スキー場周辺

31回目を迎えた道岳連交流登山会は、8月26日-28日富良野山岳会が主管して、富良野西岳・芦別岳・富良野岳及び富良野スキー場周辺を会場に開催された。登山会には加盟25団体、個人会員181名が参加した。

一日目は13時に受け付け開始、15時から富良野スキー場「北の峰ターミナル」で開会式、同会場で交流会を実施した。その後もそれぞれがテントを行き来し交流を深めた。

二日目は、富良野西岳を中心とした各コース（A⇒北の峰ゴンドラ山頂駅～富良野西岳～富良野ロープウェー山頂駅 B⇒北の峰ゴンドラ山頂駅～富良野西岳～4線沢 C⇒4線沢～富良野西岳～富良野ロープウェー山頂駅）を登った。一時雨が降ったり、富良野ロープウェーが故障で運行が中断されるハプニングもあったが、各隊とも協力し合い無事に下山する。予定より早い14時には閉会式を行い解散した。

秋葉会長をはじめとする富良野山岳会の皆さんには、ロープウェー・ゴンドラの特別料金やスキー場施設の利用など、管理者との折衝やスムーズな大会運営に大変な尽力をして頂いた。



北の峰ターミナルで参加者記念撮影



4線沢コース →

行事・各委員会事業報告

平成29年度総会・第1回理事会 5/14 札幌エルプラザ

北海道山岳連盟平成29年度総会・第1回理事会は、去る5月14日(日)札幌エルプラザにおいて、加盟山岳連盟・山岳会の67名(委任状12団体)の出席のもと開催された。

小野会長は開会挨拶で、オリンピック絡みでS C競技への対応が急速に進む。全日大会の準備状況、道岳連財政状況の厳しさ、高齢化に伴う山岳会の解散などに触れた。議長に千歳ヤマセミ倶楽部為野氏、北見クーラカンリ増子氏が選出され議事に入った。

1号議案「平成28年度を振り返って」では、明田理事長より①所属岳連、山岳会への情報伝達に難 ②リーフレットの配布 ③普及事業での各山岳会の協力 ④指導委員会の新規資格者増 ⑤個人会員の充実 ⑥交流登山会の富良野開催 ⑦山の日事業、安全登山シンポジウムの継続など。第2号議案「平成28年度事業報告」、第3号議案「平成28年度収支決算報告」、第4号議案「会計監査報告」は、事務局、各専門委員会、監事から報告があり、三件の質疑を経て承認された。第5号議案の「加盟団体脱会」では、会員高齢化で活動困難により渡島西部山岳連盟から脱会の届け出があり承認する。第6号議案「平成29年度に向けて」で理事長は、①全日大会、交流登山会、山の日、アウトドアフェスを着実に実施 ②加盟団体や地域山岳会との接点模索 ③財政の逼迫化対策 ④リーフレット配布の効率化 ⑤事業運営の課題の解決等を目標として掲げた。第7号議案「平成29年度活動方針及び事業計画(案)」、第8号議案「平成29年度会計予算(案)」、第9号議案「備品台帳報告」は事務局長、各委員会委員長が説明し、提案通り承認される。

第10号議案「組織・管理運営規定の一部改訂」では指導委員会に山岳スキーを追加、第11号議案「各種議題・その他」では日山協参与に太田紘文、土屋勲両氏及び道岳連参与に神山健氏の推薦を承認。「山の日」登山会の実施要請、6/20安全登山シンポジウムは田中陽希を招聘。6月にミニトレラン、交流登山会などの連絡事項の説明があった。

引き続き第1回理事会が開催され、日山協の現状に関する話題提供、平成29年度加盟金の早期納入についての要請があり15時閉会した。



東北山岳スキーツアー 4/28-5/1 八甲田山・鳥海山

4月28日21時、全道から26名が苫小牧に集合しフェリーにて(他1名は現地)出発。翌朝4時45分八戸着、さっそく八甲田山に向かうがあいにくの雨模様、ゴンドラ休止のためやむなく近くの酸ヶ湯温泉へ。まだ時間があるため弘前城公園の桜見物、これが満開の時期と重なり見事な桜を見ることができました。昼過ぎに今夜宿泊のホテルに向かう。美味しい夕食をいただき、盛大に天気祭を行う。そのせいか翌日は雲一つない晴天で、鳥海山を見渡せ、バスの中でも皆さん盛り上がり状態で進む。祓川コース登山口に駐車にてバスを降りる。さっそく各班準備体操。ビーコンチェックし出発するが、天気は快晴だが風が強い。避難小屋の左手の方を登るが、風が半端でなく強くなりこれ以上は危険と判断し、リーダー判断で下山を決める。下りの滑走は雪質が若干良くはないが、皆さん大きな転倒もなく思い思いにシュプール



を鳥海山に刻んで下りました。またアタックしましょう。

(指導委員会 スキースタッフ 相馬)

「がんばっぺ東北」鳥海山・八甲田山ツアー初参加を終えて クーラカンリ 美口 誠康

一日目の4月28日は苫小牧西港フェリーターミナル(20時集合) 網走から北見周りで増子会長と2名で参加しました。苫小牧まで車で約6時間とフェリーで八戸港まで約7時間と長いみちのりで登山前に体力を消耗した感じです。



二日目の4月29日は八甲田山からの滑走予定でしたが、雨と強風のためロープウェイが運休になり滑走できず残念でしたが、有名な酸ヶ湯の「ヒバ千人風呂」を朝から入浴できて長い移動時間の疲れがとれて、身体も心も温まり満足でした。入浴後は「弘前さくら祭り」も初めて拝見でき、満開の桜と規模の大きさに感動でした。

宿泊場所は湯の里温泉「ホテルまさか」さんで、美味しい山菜料理とお酒で締めくくり、二日目は温泉・桜・美食で最高の観光ができました。スキーが滑れず心残りですが…

三日目の4月30日は、待望の「鳥海山(2236m)登山」、朝から晴天で麓は風もなく穏やかな天気でしたが、やはり山の天気はわからなく1700mを超えたあたりから強風で、安全のため下山することになりました。

雪質は前日の降雪で上方では気持ち良く滑走でき、山頂には行けませんでした。日本海と山々の綺麗な景色と滑走を楽しめた一日でした。綺麗な鳥海山はもう一度チャレンジしたい山です。

私自身、登山は今シーズンから始め北見・網走周辺の山しか登ってなく、2000m超えの山は初めてで期待と不安での東北ツアーになり、参加させて頂きましたが、楽しく無事に帰宅できました。

企画運営の方々に参加の皆様には大変お世話になり、機会がありましたらまた参加したいと思いますので宜しくお願いします。



パワフルレディース登山会 1/22-23 風不死岳・楓沢

第6回目となる「パワフルレディース」は、支笏湖周辺を会場に参加者9名、スタッフ6名、計15名で行われました。

22日、支笏湖モーラップ樽前荘に集合。講習の段取りの説明。開講式の後、各自の装備を点検し不足分を配分したあと、懸垂下降の練習場所となる苫小牧川砂防ダムへ移動。砂防ダムコンクリート壁はほぼ垂直のため左右の側壁を使うことにする。安田、山崎がハーネス、ロープ、フリクションノットの説明及び懸垂下降の手順を説明している間、酒井、青山、新井が左岸側壁立木をアンカーしてロープをセットする。順番に懸垂下降をしている間、右岸側壁にもう一本ロープを下ろして一本終えた人から二本目の懸垂下降をしてもらう。各自二本ずつの懸垂下降の体験を終え、宿舎のモーラップ荘に帰着。

夕食はお楽しみのバーベキュー。さすが女性陣、段取りがよい。支笏湖の夕日が美しかった。翌朝が早いので、夜は9時過ぎには就寝した模様。

23日、4時起床、手早く朝食を準備、各自用意を調べて5時半にはモーラップ荘を出発。藤木はモーラップ荘で待機。車両を1台下山口付近にデポし、風不死岳北尾根登山口へ。軽くストレッチして登山開始。曇り空でとても蒸し暑く、2時間20分かかって風不死頂上へ。あいにく樽前山や支笏湖は望めなかった。記念写真を撮って下山開始。アパッチ砦の下から登山道を外れ楓沢へ。

楓沢は初めての人も多く、苔生した岩をくぐったり乗り越えたり、苔の回廊を楽しみながら歩く。下りは滑りやすいのでなかなか悔れない。昨今、楓沢では砂が堆積して以前苦労したハングもなんなく下りることができる。2回の高巻きをしながら途中休憩を挟み、ほぼ予定通りに国道の紋別橋近くの林道に到着。風不死登山口の車を回収し、モーラップ荘に帰り解散式を行った。

2日間雨の予報だったため、講習も室内で行わなければと覚悟していましたが、天気予報が良い方にはずれ、全て予定通りに行うことができました。懸垂下降は初めての人が多かったのですが、是非身につけておいてほしい技術です。翌日の楓沢で1回は懸垂下降を予定していましたが、時間不足で割愛しました。その分ゆとりで下山でき、苔の回廊を楽しめたのではないのでしょうか。

スタッフ；藤木たか子 酒井まり子 青山 優子 山崎 千種 安田美弥子 新井 素子

(報告 新井 素子)



風不死岳山頂



砂防ダムで懸垂下降訓練

受講者感想 富良野山岳会 山本 智子

私にとって、パワフルレディース登山講習会は憧れであり、是非参加させて頂きたかった講習会でした。この度、参加させて頂き充実した二日間を過ごすことができました。

初日は、懸垂下降の練習を行い、ハーネスの付け方からロープワークの種類や方法、懸垂下降の手順を教えて頂きました。初心者の私の頭はかなり混乱しながらの実践でしたが、一つ一つ丁寧に教えて下さいました。講師の方々には皆さん「いいよー。上手だよ！」と、優しく褒めてくれ、とても気分良く「また、やりたい」という気持ちにさせて頂きました。

夜は焼き肉を食べ、お酒を飲みながら皆さんの登山の経験を聞くことができました。次の週、初のテン泊を控えていた私は、女性ならではのトイレの問題や下着のことなど、普段はなかなか話題にならないことを含め、たくさんのことを教えて頂き勉強になりました。

二日目は、北尾根登山口を出発⇒風不死岳山頂⇒楓沢のコースへ行きました。北尾根コースは風がなく、多量の汗が噴き出る暑さでしたが、みんな揃って山頂へ着きました。下山の楓沢コースの「苔の回廊」を正直、私は知らず、どんな景色が待っているのかと不安もありましたが、進むに連れなんと素敵な所。岩全体にフワフワした絨毯のような苔がビッシリ。高いところでは4~5mもあるだろう高い真緑の壁の間を歩き、ゆったり下山。真緑の壁に光が差し込み、なんとも不思議で綺麗な岩の曲線の光景に、自然の偉大さと感動を覚えました。そんな中「美味しそうな抹茶に見える…」と、食いしん坊の声も聞こえていました。高い岩を飛び降りることや、講師の方が足を手で抑えてくれ、ロープを引き寄せながら、足場のない岩壁を登ることが所々ありましたが、皆さん躊躇なく進んでいく姿は、正に「パワフルレディース」でした。今回の参加者は年齢も様々でしたが、

先輩方の登山を楽しむ姿がとても印象的でした。

講習会の開催にあたり準備等をしていただいた講師の方々、ありがとうございました。今回、懸垂下降の経験ができ、登山の楽しみが広がったと思います。安全登山を学んで、今後も登山を楽しみたいと感じます。

沢・登攀技術研修会 8/19-20 カマンベツの沢・大星沢右股沢・ネイチャーCふおれすと鉱山

2017(平成29)年度北海道山岳連盟指導員会主催の沢・登攀研修会は、8月19日(土)～20日(日)の1泊2日の日程で、登別ネイチャーセンター「ふおれすと鉱山」、「カマンベツの沢」、白老川支流「大星沢右股沢」を実技会場として実施しました。

参加者28名、講師5名の陣容で実施した研修内容とタイムスケジュールは以下の通りで、参加者と講師のみなさんのご協力で怪我や事故なく終了しました。

8月19日(土) 9:30～ 施設内にて受付～「カマンベツの沢」へ移動 11:00-15:00 入渓～「三段の滝」で実技研修 16:00-19:00 「ふおれすと鉱山」研修室で机上研修 ①沢登り装備、遡行図、渡渉方法など ②地図読み ③沢登りに必要なロープワーク ④懸垂下降 19:00-21:00 夕食及び実情交流会

8月20日(日) 5:00 起床・朝食・清掃 6:30 白老川支流・大星沢右股へ移動 8:00～ 同沢で実技研修 14:00 ホロケナシ駐車場で解散

講師・スタッフ 藤木 晴夫 石川 孝一 藤木たか子 渡邊 良久 澤田 時人

(報告者 指導委員会 澤田 時人)



受講者感想(1) ロビニア山岳会 佐藤 都

私は山歴4年少しですが、クライミングはただただ怖いというイメージがあり、会で何度か研修会がありましたが参加しませんでした。そんな私が今回参加しようと思った動機は、先日行った簡単な沢でも登れず、しかもロープワークも出来ず散々な思いをしたからです。

1日目のカマンベツ沢はロープも使うことなく簡単でしたが、堰堤の所で一度だけプルーゾックの練習をして頂きたかったです。終点の三段の滝は圧倒的で、こんな所を登る人がいると思うと「すごいなあ」の一言です。

2日目は白老川、本番とのことで、へつりの歩き方、滝の側をフリーで登ったりしました。こ

のとき2回くらい滑ってヒヤヒヤしました。班リーダーから「不安だと思えば、ロープ投げてもらえばいいよ、事故が起きる方が大変」と云われ、なるほど自分を過信しないことだと改めて思いました。後、今回のメインの懸垂下降でしたが、初めての体験で右手を離してしまったりして、下から注意されたりしましたが、安全確保されているので気持ちに余裕があり楽しめました。

以前、先輩から「クライミングをするようになると、山のバリエーションが広がるよ」と云われましたが、今回、実感しています。沢は過去4回程行ったことがありますが、簡単な沢ばかりで今回の研修でロープワーク、懸垂下降などを学ぶことが出来、勉強になりました。独りでロープワークなど出来るように今後も機会があれば会、道岳連の研修に参加しようと思います。

今回の研修で残念だったのは、人数が多かった(28名)せいもあり、懸垂下降の所で時間がかかり、我々の班が先に終えてから待ち時間が1時間以上もあり、時間がもったいないのと、寒くて低体温症の危険？があったことです。今後の課題ですが、上級者、初級者が混ざっての研修は互いの目的が違うので無理があると思います。リーダーが講評で云っていた「たとえば、懸垂下降の実践前に屋内で練習を徹底してから臨む」とかというのも一案かと思います。しかし、沢・川は大好きなので、今回自分の課題を見つけられたのと、沢に接することが出来楽しい2日間でした。



講師の先生方、賄いのFさん大変お世話になりました。有り難うございました。またよろしくお願ひします。

受講者感想(2) 吉岡 みき子

函館から4時間かけて沢研に参加しました。沢にはいるときにはいつも、よっしゃー！ やってやろうじゃないかという気になります。夏限定、年齢限定、今しかないとおまじないのように唱え、毎週のように行っています。腰痛になるは、治りきらないうちにまた行くは、でコルセットが外せません。

今回の研修は「岩さんの沢登りガイド」に載っていたので、またリベンジしたいと思います。函館にも松倉の沢があります。奥入瀬よりも美しいのではと函館の沢人は自負しています。ちなみに、松倉の沢が今あるのは、ダムを造るのに反対した人たちによって調査され、守られたからであり、その調査に携わった中に高島さんがおります。「ダムがムダな理由」という本が出ています。函あり、滝あり、ナメあり、そしてアヤマ湿原ありと変化に富み、初心者から上級者まで楽しめる沢です。是非お越しく下さい。

私の一番の思い出の沢といえば、楓の沢です。樽前山の途中から谷に入り、何回か懸垂下降をし、15mのオーバーハングを降り、苔むした回廊を歩き、最高でした。道岳連の交流登山会で知り合い、連れて行っていただいた室蘭の須貝さん達に感謝しています。この度の沢研は寒さに震えましたが、おかげで虫に刺されませんでした。今回習った地図読みを忘れず、ロープワークは立待岬でロックをしようということになりました。

楽しかったです。お酒もおいしかったです。ありがとうございました。

受講者感想(3) 個人会員 土崎 健

今回は、1日目から技術研修がありました。宿泊地の鉾山町周辺の沢である「カマンベツ沢の三段の滝」を目指しました。澤田さんのおかげで林道歩きが少なく、すぐに入渓できてありがたかったです。前日の雨のためか水量が少し多かったようで、歩き始めの徒渉するところが難しい様子が参加者に見られましたが、山岳連盟の方が適切に補助してくれました。

川の流れる音、緑がかった沢、ところどころで現れる滝の景色がとてもきれいでした。また滑床を歩くのもすがすがしかったです。目的地の三段の滝はとても見事で「着いたー！ やったー！」と達成感を感じました。2時間半かけて到着した三段の滝から、復路の林道歩きは30分。逆に「短い距離でも楽しめる」と新たな発見でした。

その後は「ふおれすと鉱山」に戻って座学の講習会。翌日の「白老川支流の大星沢右股」の下見の写真を藤木さんに紹介してもらいました。技術研修、翌日のイメージがあったおかげで、その後の地図読みとロープワークの研修は、より目的意識の伴ったものになりました。また、ロープワークでは、指導員の方が多く参加してくださっているおかげで、わからないところをわかりやすく教えていただくことができました。教えていただいたことを忘れないように家でも練習しようと思います。

2日目は、初日より長い距離を歩く「本番！」の「大星沢右股」でした。1日目よりも高い滝の横を登ったり、ゴルジュをへつったり、高巻いて懸垂下降をしたりと盛りだくさんでした！！ 山岳連盟の方は、ロープをさっと出して補助してくださいました。滝の水しぶきを浴びながら登るのは気持ちよかったです！ そして、指導員の方が歩いたり、登ったりするルートをお手本に、グループリーダーの石川さんのアドバイスを受け、みなさんの応援のもと初めて現地で体験するゴルジュを登れた時は、心の底から嬉しかったです。そして途中、手がかりや足の置き場が見つからず、私は時間がかかりましたが、その後に登った指導員の方のサササーッと登る様子を見て、さすがだなあと思いました。

山岳連盟の皆様のおかげで、「けがなく安全に」楽しく遡行することができました。ありがとうございました。そして、今回もおいしい、おいしいご飯ごちそうさまでした。ラーメンサラダが特に大人気で、あっという間になくなりました。

平・29年度夏期遭難対策研修会 5/20-21日高登山研修所

5月中一番気温が上がり晴れて、気持ちのいい研修会となりました。参加者は、一般参加者2名と個人会員5名を含め会員19名(消防士4名)、講師4名の22名での研修を行いました。

開会式の後、遭難状況について、28年は115件、135人の遭難が起きている。主に冬のスキー場の場外事故が急増したことが要因であるが、夏の遭難で多いのは、道迷い、転倒、滑落の原因が上位を占めている。遭難の原因について事例を挙げ、道迷いは地図、コンパスを持ち歩かない登山者も多く、最近スマホのGPSが手軽であるが、地図を読めるよう熟練が必要であり、地図と併用することで、より確実となる。

中級以上の山には、ある程度体力が必要であり、普段から体力づくりのトレーニングと登山道では転ばぬように慎重に歩くことも大事となる。暑い中給水や休憩時間を削って長時間歩いたことで、熱中症や脱水症で救助される者もある。秋口には日暮れも早く、ライト不備で帰れなくなり助けを呼ぶ者もあり、危険性に対する予測と準備は必要である。登山では、下山時に起きる遭難がほとんどで、登山口まで気を抜かないこと、グループでは離れず気遣いながら行動することも遭難の予防となります。

2時間目は、仲井講師が中心となりロープ理論を行い、ロープの種類や支点の取り方、結びの種類と強度などを講義しました。その後体育館にて、為野講師のチロリアンブリッジの張り込み方、仲井講師は、簡易ハーネスの作り方と実際につり下がる体験を実施しました。

夕食は、ジンギスカン鍋にギョウジャニンニクを入れ、皆舌鼓を打ちました。食事の後には、足の捻挫に多い内反の応急手当、テーピングと三角巾による処置を実施しました。

2日目は、研修所の近くの沢において、スタティックロープを使いチロリアンブリッジの張り込みと要救助者の搬送を二班に分け実習しました。最初は張り込みがうまくいかず救助者を搬送中に下がりすぎ、倒木が障害になったり乗り降りが困難な状態であったが、二度目の張り直しでは渡す地点を変え、砂防ダムの上から砂防下の対岸までロープを張り込み、支点の樹木にバックアップをセットする班と谷の両側に支点をとる箇所を変えての再挑戦で、ハーネスを使った搬送はそれぞれ成功し、何度も希望し要救助者で搬送された会員もありました。研修は楽しく高度な技術を得とくされた参加者も少なくなかったと感じました。

今回使用したスタティックロープは10mm×50mナイロンよりテープで、テンションをかけるとよじれる性質があり、張り込みの支点セットを工夫する必要があると感じました。

この研修会を通じて、初めての参加者にはかなり高度で過重な実習であったと感じました。しかし各班のリーダーと指導員の研修に対する熱意と協力により、安全で楽しい研修になりました。最後に、それぞれリーダーに立候補した研修生からは、今回の研修会ではグループをまとめることや作業を効率よく安全に進めることの難しさ、協力しあえば大きな作業も可能であり、得るものは大きかったとの感想が述べられました。 (遭難対策委員会委員会 委員長 斉藤 邦明)

講師・スタッフ 斉藤 邦明 仲井 信夫 為野 宜己 潮田 満



夏山講習会 Part I 暑寒別岳 5/6-7 暑寒別岳・ゆうゆうそう

夏山講習会 Part I は、5月6日(土)-7日(日) 残雪の暑寒別岳と小平町「ゆうゆうそう」を会場に、参加者24名、スタッフ9名で実施された。

一日目は、10:00に旧JR増毛駅に集合し、登山口の暑寒荘へ移動。急な斜面での滑落停止などの歩行訓練を実施後に宿舎の「ゆうゆうそう」で机上研修と夕食・懇親会を行った。

二日目は、スキー班とスノーシュー班に分かれて暑寒別岳に登る。各班の行動記録は以下のとおり。

【スキー班記録】

5月7日 班構成 18名 天候曇り (報告 スキー班 細木 輝雄)

暑寒荘駐車場発 6:20 ⇒ スノーシュー班と一緒に出発、雪が少なくスキーを担いで登る ⇒ 徒渉ポイント 6:50 ⇒ ここからスキーをはいて林道進む ⇒ 途中からショートカットして尾根上に ⇒ 佐上台 7:50 ⇒ この辺からやっと雪がつながる ⇒ ドーム 9:30 途中何度か休みながら広大な斜面に登る ⇒ 滝見台上部コンタ 1160m 11:00 ⇒ スノーシュー班はここから下山 ⇒ スキー班はさらに進むことにするが風が強い ⇒ 大斜面取り付け 12:00 ⇒ 昨日の雨の影響か、とっておきの大斜面が硬く、ここから止む無く下山 ⇒ 帰りはそれぞれ春スキーを十分満喫、気分は最高でした！

⇒ 暑寒荘駐車場着 13:30 ⇒ 暑寒荘をバックに全員で記念写真 ⇒ 解散 14:00

【スノーシュー班記録】

5月7日 班構成 14名 天候曇り (報告 スノーシュー班 横山 温)

暑寒荘駐車場発 6:20 ⇒ 残雪期の雪なので最初からツボ足で登りスキー班の前を進む。足に器具を着けずに登る事は、いかに行動しやすいかが体験できたと思います。硬い斜面はキックステップで足場を作り、時間経過とともに柔らかくなる雪面を楽しく登りました。⇒ 滝見台 10:00 さらに高度を上げコンタ 1160m で 11:00 風も強さを増してきたので、全員で記念写真を撮り今日の頂上として下山する。黄砂の影響で景色はボンヤリしていましたが、暑寒別岳の広さを感じながら楽しい山行となりました。普及委員会としては初めての残雪講習会でした。

顧問-小野 倫夫 スタッフ-横山 温 細木 輝雄 松下 陽子 加藤 陽子 佐々木 秀幸
駒込 伸次 駒込 則子 横山 泰子



暑寒荘



受講者感想(1) 斜里山岳会 笠井 憲子

道岳連指導員会の研修には何度か参加させてもらっていましたが、普及委員会の講習会には今回初めて参加させてもらいました。普段は道東の山を中心に登っており、暑寒別岳は初めてなので楽しみに参加しました。

1 日目は、つぼ足で講習場所へと向かい、つぼ足でのキックステップとアイゼン・ピッケルを使用しての歩行講習を行いました。冬山でも行っていましたが、夏山の雪渓歩きで使える技術を学ぶことができました。宿泊施設では座学を行い、夕飯に美味しいすき焼きをいただきました。用意して下さった皆さんありがとうございます。また、各地の山の情報を交換して、楽しい時間を過ごすことができました。



ゆうゆうそうでの懇親会

2 日目は、暑寒別岳へ向かい山スキーで頂上を目指しました。登山口は雪がなくシートラから始まりました。雪がない場所ではスキーを抱えて登って行きました。スキーは重たく、雪がないことを恨めしく感じました。スキーを履いたり脱いだりしながら頂上を目指しましたが、風が強くなってきたことから 1300m 付近で引き返すことになりましたが、帰りは尾根沿いをスキーで快適に滑って降りてくることができ、楽しい山行でした。

つぼ足でのキックステップやアイゼン・ピッケルを使用しての歩行講習、シートラや行動中のス

キー着脱のタイミング、ルートファインディングなど、残雪期の行動の基礎を学べた2日間でした。また暑寒別岳には行きたいと思っています。

受講者感想(2) 富良野山岳会 川邊 由美

前日の雨も上がり、気持ちのいい天気の中を出発。前日の雪山訓練の場所を超え、林道沿いに歩くこと4時間。頂上には到着出来ませんでしたが、1150m地点？までツボ足でのんびり歩行。稜線の強い風も何のその。この時期はスノーシューはいらないんだと、妙に感動しておりました。

帰りはスキー班に負けない気合いで、ザックカバーで尻すべり、と意気込んだのですが、なかなかうまくいかず… 来年は山スキーで頑張ってみるか、と、気合いを入れ直しました。

富良野山岳会から7人の参加で盛り上がり、他の参加者たちと山の話と「國稀」で盛り上がり？楽しい山行でした。夏にはリベンジ暑寒別岳を心に誓いました。みなさんありがとうございました。

夏山講習会 Part II 室蘭の岩と沢 6/10-11 室蘭チャラツナイ海岸・室蘭岳・滝沢・サンパワー380

夏山講習会 Part II は、6月10日(土)-11日(日) 室蘭周辺の岩と沢を会場に、参加者15名、スタッフ11名の合計26名で実施された。

一日目は、9:30に室蘭市地球岬駐車場に集合したが、雨のためチャラツナイ海岸での岩登りを中止して、登別市酪農館「鬼壁」でのクライミングに変更。10:50からの開会式後に講習を開始する。橋村講師によるロープの結び方、三点支持、トップロープによる登攀、確保の方法、懸垂下降の実技を15:00まで行った。終了後に宿舎のサンパワー380に移動、さらに2時間の座学講習でロープ技術、沢登りの基本講習を実施し、夕食・懇親会へと移った。

二日目は、天気に恵まれ室蘭岳滝沢班とカムイヌプリ～室蘭岳縦走班に分かれて行動する。滝沢班は前日の雨で少々水かさが増したものの、綺麗なナメから苔むした滝を楽しんだ。縦走班は水元沢、お花(オオサクラソウ)、噴火湾の展望を楽しむ。それぞれの班が計画通りの行動し、参加者・スタッフの協力で無事講習会が終了した。計画にあたり、室蘭山岳連盟の現地スタッフ、鬼壁の管理者森山氏にご協力を頂きました。

顧問-小野 倫夫 講師-橋村 昭男 スタッフ-横山 温 細木 輝雄 松下 陽子 加藤 陽子
佐々木秀幸 横山 泰子 現地スタッフ(室蘭山岳連盟)-岡崎 孝 篠原 修 佐々木恵美子



登別酪農館でのクライミング



室蘭岳滝沢

《縦走班の報告 CL 松下 陽子 ロビニア山岳会》

本日の縦走は、参加者7名スタッフ2名でスタートしました。7時に出発してスキー場を横切るとすぐに下り…登山なのに、しかも始まってすぐに降りるの～なんて参加者から笑い声を交えながらの悲鳴が聞こえてきましたが、何度も一緒に山行をしている仲間なので、和気あいあいと歩み進みます。



水元沢コースの名の通り、数回の徒渉がありました。初めて徒渉される方もおり、手を引いたり、足場を教えたり、安全に渡れるよう配慮しました。滝沢分岐では、靴ずれをしてリタイヤを考えた参加者もおりましたが、痛みをこらえてカムイヌプリの頂上を全員で踏むことができました。

途中、札幌の高体連という学生50名と教員たちとすれ違いましたが、皆呼吸ひとつ乱さず急登に行く姿に将来のアルピニストと声をかけると、キラキラ輝く笑顔を返し

てくれました。若さを少しでも分けてほしいと思ったのは私だけではないと信じています(笑)。

カムイヌプリの頂上からは、太平洋と室蘭の街がきれいに見え、これまでの疲れが吹っ飛びました。室蘭岳に向かう途中で沢組と合流！申し合わせた訳ではありませんが、感激です。(企画担当者はちゃんと考えて出発時間を調整したのだと思いますが…)標高差250mの急登を終えると室蘭岳頂上。本日はたくさんの方が登っておられ、頂上は満員御礼の状態でした。縦走組、沢組、合同で記念写真を撮り、昼食後西尾根コースから下山します。ハクサンチドリ、シラネアオイ、オダマキ等綺麗なお花がたくさん咲いていて、景色も綺麗で楽しく下山できました。

白鳥ヒュッテに到着して頂ける冷たいお水は、これまでの疲労が飛んでいくほどのおいしさ。「生き返る～」と、参加者の方も喜んでおられました。また、コースの途中途中で山の恵みもあり、これは春山の特権ですね。一日を通して、雨は降ったり止んだり、雨具を着たり脱いだりと忙しい一日でした。靴ずれをした参加者もおりましたが、総距離12km、約7時間、大きな事故もなく無事縦走を終えて下山できました。参加者のみなさんお疲れ様でした。次回もよろしくお願い致します。

受講者感想

初日は生憎の雨で、岩登り実技が出来ず残念！ 酪農館へ移動して室内の講習となった。ん？？？2年前参加した小樽と同じパターンか？ 前はクライミングで壁の1/3程度しか登れなかったの、また今回もダメだろうなと思いながら先に登っている参加者の動きを観察していた。自分の順番が来て、いざ登り始めると意外や意外ゴール点まで到達。これに気分を良くしてATCを利用してのビレイ、懸垂下降などスタッフの解かり易い指導を受け、イメージどりのロープワークができた。

2日目はいよいよ沢登り。初めて履く沢シューズとハーネスを装着して入渓。ほとんど初体験でどんな状況が待ち受けているか不安を持ちながら浮き石、滑る石、水深などなど注意しながら歩を進める。難所の滝は二つあったが、安全第一にロープを使用することとなった。スタッフの迅速なロープ設定と引き上げにより、参加者全員アクシデントなくクリア、ここでは、前日の実技講習で覚えたロープの結び方、ハーネス、カラビナ、スリングの使い方やビレイ、懸垂下降の体験とスタッフが居ることの安心感ですんなり登れました。今回の講習会は収穫が多く大変勉強になり、参加してよかったです。また、食事をつくっていただいたスタッフの方々、美味しい料理で2日目の沢登りにたくさんの元気をもらいました。ありがとうございました。沢登りまた行きたいです。

夏山講習会 Part III 雨竜沼湿原と南暑寒岳 7/15-16

今年度三回目の夏山講習会は、7月15日(土)～16日(日)の両日、雨竜沼湿原と南暑寒岳(1296m)を会場に参加者7名とスタッフ4名で開催した。

【行動記録】

1日目 共同テント設営、白竜の滝ハイキング

今回の講習会には参加者7名とスタッフ4名の総勢11名で雨竜沼湿原ゲートパークにある立派な施設の南暑寒荘とテントに分かれて宿泊、2日間の日程で行いました。

初日、10時30分に参加者各自の車で雨竜町にある道の駅「田園の里うりゅう」に集合し開会式後、ここから砂利道と舗装道路が交互に出てくる道をひた走り、雨竜沼湿原ゲートパークに一時間程で到着する。ここ雨竜沼湿原は「北海道の尾瀬」と称されるくらい有名で、今日は三連休の初日でもあり、300人以上の人が来ているとか、二ヶ所ある駐車場はほぼ満車状態。何とか車を駐めて近くのキャンプ場に、個人テント、共同テントを設営し、それから白竜の滝まで30分程ハイキング。白竜の滝の下まで降りて見上げると豪快で、落差のある滝の水はとても冷たく、猛暑でヒートアップした体を癒やすのに絶好のポイントでした。



白竜の滝

再びキャンプ場に戻り、冷えたスイカとトマトを食べた後、早めの夕食に豪華バーベキューで楽しい交流となりました。

2日目 雨竜沼湿原から南暑寒岳登山

朝テントから顔を出すと、雲が低く垂れ込めていて天気は今一だが、昨日までの暑さはなく、早々に朝食を済ませて、午前5時15分には全員元気で出発する。立派な南暑寒荘の横を通り緩やかな砂利道を歩いて行くと、ペンケペタン川かかる第一吊り橋があり、そこを渡り少し登ったところに、昨日訪れた白竜の滝が眼下に見えて勢いよく流れ落ちていた。そこからさらに10分ほど登ると第二吊り橋に着き、ここから登山道は急登で石がゴロゴロ、高度が上がるにつれて霧が一段と濃くなってきた。しばらく登ると、下の方にあった溪流は近くなり急な登りは一段落、視界はあまり良くないが木道沿いには様々な形の沼や池塘がうっすらと見え、そばにはエゾカンゾウの大群落やワタスゲなど多くの花々が私たちを歓迎してくれた。



湿原の風景を楽しみながら歩いて行くと、途中で道が二手に分かれ一方通行になっていて案内板に従って時計回りに進むと、あっという間に木道が終わって湿原の端に到着。ここから最近笹刈りをしたばかりの少し急登の道を登り「湿原展望台」に到着、大休止する。本来ここからの湿原の眺めは絶品のはずだが、今回は霧のためにお預け、次回のお楽しみ。

ここで、参加者の女性一人と横山リーダーが待機することに。残りのメンバーで南暑寒岳を目指し登り出すと、ポツポツと雨が降り出してきた。緩やかな登山道は良く整備されていてとても気持ち良かったが、登るにつれ雨が增々強くなり雨具を着けて進むと雷が鳴り出し頭上まで迫ってきたことから、南暑寒岳までもう少しの所ではあったが、何より全員の安全を考え横山リーダーに連絡

して、ここから下山する事にしました。湿原を流れる川も雨で増水し、橋を渡るときには膝まで浸かりスリル満点、先を急いで行くと暑寒別の山並みや湿原の全容が少し見えてとても美しかった。

雷と雨がしばらく続いたが、何とか南暑寒荘まで下り、全員無事で一安心。テントを撤収し帰りの準備をする頃には、すっかり雨も上がり青空も見え隠れするほど天気も回復して、改めて山の天候の難しさを感じた山行でした。

スタッフ 横山 温 細木 輝雄 加藤 陽子 横山 泰子

受講者感想 旭川 M.Kさん

2017 年普及委員会 夏山講習会 PartⅢ 雨竜沼湿原&南暑寒岳に一般参加させていただきありがとうございました。

1 日目はテント設営してから、白竜の滝までハイキングをしました。天気はとても良くマイナスイオンをたっぷり浴びることができました。夕食はテントでのバーベキューでした。皆さんで準備し、バーベキュースタート。お酒とお肉など～楽しい時間はあっという間に過ぎていました。

2 日目は雨竜沼湿原と南暑寒岳でした。出発時はまだ良かったのですが、湿原では霧で視界があまり良くないものの、お花が咲いてとても綺麗でした。南暑寒岳を目指している途中で雨が降ってきました。そして山頂まであと少しの所で雷が！！ 残念ですが下山する事になりました。

雨で全身ずぶ濡れでしたが、行きより帰りの視界が良く湿原の景色に感動させられました。登頂できませんでしたが、またチャレンジしたいと思いました。また参加した皆さんと一緒したいと思います。ありがとうございました。

2017 ジュニア登山教室 8/5-6 **旭岳・国立大雪青少年交流の家**

2017 ジュニア登山教室は、8月5日(土)～6日(日)の両日、大雪山国立公園旭岳と国立大雪青少年交流の家を会場に、17名(小学4年～中学1年)、スタッフ8名(うち2名はジュニアリーダー；ジュニア登山教室OBの高校生)で開催した。なお、今回の事業は国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けた。

北海道でイチバン高い山〈旭岳〉に全員登頂！

8月6日午前9時、参加17名の子供たちは家族の見送りを受け、札幌駅北口エルプラザ横に停車中のマイクロバスに乗る。今年は親が参加できないプログラム。親の方は旅立つ我が子に心配顔だが、子供たちはサバサバして別れる。親しい友達と一緒に参加する子供が多く、すぐに、しりとりゲームやダジャレ合戦を始め、バスの中はにぎやか。富良野に入ると十勝連峰の景色が広がる。が、子供たちは眺めるものの、あまり興味を示さない。捉えどころのない遠くの山を、身近に受け止められないようだ。宿泊先の国立大雪青少年交流の家に12時30分到着。施設担当者から館内の説明を受け、その後、4チームに分けウォークラリーを行う。一周60分程だが、同じチーム同士は協力しながらチェックポイントの課題に挑む。つづいて、スタッフだれ一人経験したことがないキンボールというニュースポーツ、指導者の適切な進行で、子供たちはチームワークが必要なキンボールにたっぷり汗をかいた。



宿泊者全員が集う「ゆーすぴあタイム」の司会と国旗降納担当に、ジュニア登山教室の3名が指名された。係の人から、施設での挨拶と仲間意識の大切さを聞く。食事、入浴も予定どおり進み、研修室に場所を変え、リーダーから明日の登山の持ち物チェックと山の話。各家庭の事前準備がよく、特別の問題もなく進む。あとは、普段と違う動きで疲れている子供たちが早く寝ることを祈るだけだ。

8月6日、朝5時の起床。子供たちは眠り足りないようだが、寝具のかたづけと部屋の掃除を協力しながら行う。朝霧が漂う夏らしい天候は気温の上昇を告げている。予報は曇り一時晴れ、登山にまあまあの天気でもよかった。

8時過ぎ、旭岳ロープウェイに乗る。予想したほどの混雑はなく、姿見の駅からお花畑を通り石室前のテラスで小休憩。噴煙を抱えて旭岳が美しい姿を見せてくれる。子供たちは嬉しそうに歩む。砂地で滑りやすい道もしっかりと登る。30分おきの休憩を4回とり、2時間50分で山頂に到着。大人の平均的なタイム、身軽な子供ならではの歩みだ。

北海道でイチバン高い山、初めての旭岳に登頂でき子供たちの表情は明るい。山頂は曇り始めてきたが、風も弱く暖かい。大勢の登山者が腰を下ろし、近くではパトロール中の道警山岳救助隊一行が、安全登山をアピールしている。我々と顔見知りの救助隊長は、ジュニア登山隊と山岳救助隊の合同写真撮影を勧め、さらに、隊長は子供たちに安全登山の話をしてくれる。下山にあたっては気をつけること、そして隊長の仕事するなど、子供たちは真剣な表情で話を聞く。さらに若い隊員、山岳医はひざや足首が少し痛いという子供4人にテーピングまでやってくれる。



北海道警察山岳救助隊と旭岳山頂で記念撮影

下りは小石や砂礫で歩きにくい、初めての登山に少しずつ慣れ、歩き方が良くなってきている。リーダー、サブリーダーは常時注意を与え、子供たちはそれに答えて降りる。姿見の池駅まで慎重に下る。休みもたっぷり取り、歩行時間は登りも下りも同じだけかかる。初めて旭岳に登り、かなり疲れているはずだが、相変わらず表情は明るい。登山をやり遂げたことが自信につながり、少し安心した様子が見て取れる。

ロープウェイ旭岳温泉駅前の駐車場で解散式、子供たちにジュニア登山教室の修了証とバッジが渡される。そして、近くの温泉でひと風呂浴びてバスに乗る。すっかり静かになった帰りのバス。

スタッフ 秋元 篤男 本林 尚之 為野 宜己 佐藤 幸恵 高見 直広 瀬川 優

※参加した子供たちの感想文は、紙面の関係で次号(1月号)に掲載します。

第72回 国体山岳競技北海道ブロック予選会 兼 平成29年度 北海道体育大会山岳競技会 8/5-6

国体予選会は、平成29年度北海道体育大会山岳競技を兼ねて、8月5日ボルダリング競技がグラビティリサーチ札幌、同6日リード競技が美唄市体育センターで開催された。

(1) 国体参加選手・監督 計38名 (競技役員36名)

- ・キッズ、ビギナー及び中学2年生以下の選手を除いた国体エントリー数(2種目参加)
(内訳)

種別	成人男子	青年女子	少年男子	少年女子	監督		
人数	8	2	17	7	4		

(2) 種目別全参加者数

種目	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	ビギナー	キッズ	合計
ボルダリング	8	2	27	12	24	ビギナー内数 (10)	73
リード	9	2	19	12	8	13	63

(3) 大会成績 道岳連盟HP 国体委員会のページ参照

第72回国民体育大会北海道代表選手

成年男子	監督	石井 昭彦	北海道防衛局
	選手1	國谷 斗馬	グラビティリサーチ札幌
	選手2	岸本 武蔵	北海道科学大学2年
	補欠	白戸 隆雅	北海道科学大学2年
成年女子	監督	一安 敏文	一安組
	選手1	萩原 亜咲	Whipper Snapper Gym
	選手2	小武 芽生	女子栄養大学短期大学部2年
	補欠	一安 瑛子	株式会社 秀岳荘
少年男子	監督	橋村 昭男	北海道医療専門学校
	選手1	坂本 大河	札幌市立常磐中学校3年
	選手2	竹内 悠真	立命館慶祥中学校3年
	補欠	佐川 奎汰	北海道遠軽高等学校3年
少年女子	監督	長井 洋子	株式会社 明治
	選手1	北谷 未紗	北海道遠軽高等学校3年
	選手2	上原子 瞳	札幌静修高等学校1年
	補欠	佐藤いぶき	北海道科学大学高等学校2年



☆愛媛国体(愛媛^{えがお}つなぐえひめ国体)山岳競技は10月1-3日 西条市で開催

2017 JOC ジュニアオリンピックカップ大会

8/12-14 富山県南砺市

今年で20回目となるJOCジュニアオリンピックカップ大会が8/12(土)~14(月)の3日間、富山県南砺市で開催された。北海道からの出場は、武者知希(男子ジュニア)、坂本大河(男子ユースB)、竹内悠真(男子ユースB)、上原子 瞳(女子ユースB)、井土桜花(女子ユースC)の5名である。今年の富山は低温が続き、3日間すべて最高気温が30℃を下回り、北海道選手団としては絶好の気象条件であった。(初日の雨はひどかったが…)

壁は4面あり、右からA、B、C、D壁と名付けられていた。A、Cが男子、B、Dが女子で、2ルートを2日間かけてフラッシングで登り、総合成績で決勝進出者を決める。グレードは選手の感想と、有力選手の登り具合から、順に13b/c、12b、13a、12b/cくらいと見た。

初日、武者が全体の5番手でA壁に登場する。すでに日本代表になった武者の登りに迷いはない。遠く悪いホールドにも、持ち前の思い切りの良いムーヴで対応し、最上部に迫る。傾斜の切れる35手目を保持したときに足が切れここでフォール。ジュニアの中ではこの日二番目の高さであり心配はない。続いて女子ユースCに井土、D壁に挑む。オレンジ色で統一されたホールドで、30手を過ぎるあたりから厳しそうだ。ジュニアも含め29人登って完登は3名、井土は中1とは思えない落ち着いた登りで全く隙がない。最上部垂壁部は井土には遠そうに思えたが、完璧といえるムーヴで4人目の完登を果たす。当然この日のトップである。

続いてユースBに上原子、坂本、竹内が登場する。上原子はD壁だ。これまで全国大会のリードでは上部までなかなか届いてなかったが、今回は実力を出し切る。思い切りのいいムーヴと30手目あたりのアンバランスなホールドからの切り返しも粘り、34手+まで伸ばす。この日の11位、完登まで9手に迫った。坂本は同時にA壁に挑む、武者から「27~8手のホールドが予選通過ライン」「途中のガストンが悪い」という情報のもと、テンポ良く登る。核心の24手を止め、次への一手を出してフォール。この日3位タイと好位置につける。初日最後は竹内、武者からの十分な情報収集により自信を持って進む。前半の遠いホールドも難なくランジで止め、大きな動きで24手へ、竹内も25に手を出すのがフォール。24+でこの日3位タイ。



初日の段階では、まだ半数のテータであるが、1位、2位、3位、3位、11位に食い込み、全員に決勝進出のチャンスがある。夜のミーティングでも意欲的な発言が多く、翌日へのモチベーションが高まった。

2日目も逆のルートを同じ順番で登る。初日のルートを各選手良く研究しており、前日、予選通過ラインと予想したポイントを次々越える選手が現れ、予選通過は完登かそれに限りなく近い登りが必要になってきた。

まずは武者、スピーディで的確なムーヴで一気に上部へ、35手目のクロスもしっかり止め、多くの有力選手を落としたゴール一手前も保持、完登でジュニアの部トータルで2位通過を果たす。続いて井土、本人は心配気味でもあったが、得意の強傾斜を迷わず突破し、余裕を感じさせる。最後の一手で力を使ったように見えたが完登、堂々のトップ通過(6名が両完登)。次は上原子、井土からの情報で、がぶりに入ってからのホールドをしっかり意識して登る。この日も気後れせず攻めた登りを見せ、リード力の向上を感じさせる。強傾斜の34手が悪く、両手を保持するもクリップ、次の手も出せず粘る。ここでフォールし、この課題25位(33人中)、トータル27位となったが、あと1~2手伸ばせば一気に中位グループに届く。続くは坂本、決勝進出の可能性を残しスタートだ。下

部は落ち着いた登りでクリップも順調だ。パターン壁の足もよく拾い急傾斜へ、よく粘って 31+まで伸ばしてフォール。このルート 25 位、トータル 24 位 (39 人中) となった。本人は納得していないが、リードの伸びを感じさせる試合運びであった。次に竹内、強傾斜に抜群の適性があり期待できる。20 手目のポケット取りで一瞬剥がされるが、安定した登りで上部へ、坂本の落ちたホールドもしっかり保持、登る前からポイントとしていた 35 手目のクロスが届かず、34+。このルート 17 位タイ、2 日間トータルで 19 位であった。ユース B の激戦区の中、充分に力を出し切る登りだった。

(報告者 畑野 和宏)



北海道選手の成績

選手名	カテゴリー	予選 1	予選 2	決勝	最終成績
武者 知希	男子ジュニア	35 (3 位)	Top (1 位)	42+	2 位/11 人
竹内 悠真	男子ユース B	24+ (15 位)	34+ (17 位)		19 位/39 人
坂本 大河	男子ユース B	24+ (15 位)	31+ (25 位)		24 位/39 人
上原子 瞳	女子ユース B	34+ (26 位)	34 (25 位)		27 位/33 人
井土 桜花	女子ユース C	Top (1 位)	Top (1 位)	43+	3 位/26 人

美瑛富士避難小屋携帯トイレフース点検 8/6

十勝連峰美瑛富士避難小屋に、環境省が試行的にテント型の携帯トイレブースを設置し 3 年目になる今年も、北海道山岳連盟、札幌山岳連盟など「美瑛富士トイレ管理連絡会」加盟の道内山岳 9 団体が維持管理のための点検パトロールを分担して実施しています。

北海道山岳連盟は 8 月 6 日にパトロールを行い、ブース本体や便座の清掃、小屋内の残置ゴミや汚損の点検、周辺の汚物や使用済みティッシュの回収を行いました。今回の参加者は 6 名 (旭川山岳会 3 名、美瑛山岳会 3 名) でした。シーズン盛りの時期でもあり、小屋周辺の目隠しになる箇所から大便 8、使用済みティッシュ 9 を回収して担ぎ下ろしました。多いか少ないかは別として、各団体の報告によると以前から見てかなり汚物は少なくなっているとの記述が目立つようになっています。

環境省が昨年実施した、美瑛富士避難小屋・野営指定地利用登山者アンケート (聞き取り調査) によると、縦走登山者を含め約 60% が携帯トイレを携行していたとのことです。野営指定地の裸地拡大や周辺の汚染が深刻化するトムラウシ山も、今年から「汚名返上プロジェクト」を立上げ、携帯トイレの利用促進の取り組みを地域一体ですすめています。

(報告 自然保護委員会 内藤 美佐雄)

今後の諸行事

北海道トレイルランニング大会 2017 in ルスツ

1. 期 日 平成29年9月24日(日)
2. 会 場 ルスツリゾート・貫気別岳周辺

登攀技術研修会

1. 期 日 平成29年9月30日(土)～10月1日(日)
2. 会 場 小樽赤岩・小樽おこぼち山荘

第2回理事会

1. 期 日 平成28年10月15日(日)
2. 会 場 札幌市

第15回スポーツクライミング北海道選手権大会

兼 第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会
兼 第57回札幌市民体育大会クライミングコンペ

1. 期 日 平成29年10月29日(日)
2. 会 場 北海道科学大学体育館

日高登山研修所納会(各専門委員会・安全登山研修会)

1. 期 日 平成29年11月4日(土)～5日(日)
2. 会 場 日高登山研修所

道内山岳9団体交流会

1. 期 日 平成29年11月16日(木)
2. 会 場 札幌市内

冬期遭難対策研修会

1. 期 日 平成29年12月9日(土)～10日(日)
2. 会 場 十勝岳

山岳スキー初・中級研修会

1. 期 日 平成29年12月16日(土)～17日(日)
2. 会 場 札幌国際スキー場・朝里岳

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.81 平成29年9月15日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄